5月24日
2022年
（令和4年）
火曜日
第20054号（日刊）
土、日曜・祝日は休刊

鉄鋼新聞
Japan Metal Daily

関東郊外の形鋼流通業者

東京都心に拠点開設の動き

物件情報、市場動向などリサーチ

関東郊外に本社を置く形鋼流通業者が、東京都心に事務所を置く動きが出てきた。東京に活動拠点を置くことで再開発事業など大型案件などの物件情報をより早く把握したり、中長期的な鉄骨市場動向を探ったりする必要性を感じているためだ。どの社も単なる営業所にとどまらない〝人や情報の交流拠点〟に活路を見いだそうとしている。

千葉県北東部に鋼材倉庫と加工工場を構える松山鋼材（旭市飯岡）は、国内有数のオフィス街である東京・丸の内に東京オフィス「早苗（さなえ）」＝2面に関連記事＝を6月10日に開設する。鉄骨二次部材の胴縁加工が主力の同社は近年、東京五輪・パラリンピック関連施設や大型物流倉庫向けの受注を重ね高い稼働率を維持してきた。だが向後賢司社長は「物流倉庫もいつかは需要が減る。次に打つべき手が何かを考えねばならない」と将来を危惧する。拠点新設の狙いを「商社やゼネコンが集まる東京駅近辺に、気軽に立ち寄ってもらって情報交換できる場をつくりたかった」と語る。

松山鋼材

東京・丸の内に出先開設

来月10日、情報収集・交流拠点に

鋼材加工販売業の松山鋼材（本社・千葉県旭市、社長・向後賢司氏）は、県外では初の出先拠点となる東京オフィス「早苗（さなえ）」を東京駅近くに開設する。6月10日から業務を開始し、所長には元日鉄建材常務執行役員の古川洋氏（65）がオフィサーとして着任。設計担当を含め4人が在籍し、情報収集や人材交流に努める。

松山鋼材は、建築鉄骨二次部材の胴縁加工を主力に、形鋼や鋼管、鋼板の一次加工、太陽光発電パネル架台の設計・製作を手掛けている。向後社長は「将来に向けての布石」と新拠点開設の狙いを説明。「お客さまとのコミュニケーションを高め、社会情勢の変化に迅速に対応できるようにしたい」と意気込む。

新オフィスの所在地と連絡先は次の通り。

▽住所＝〒100－0005 東京都千代田区丸の内3－3－1 新東京ビル1階 158－A区

▽電話＝03－6275－6005

▽ファクス＝03－6275－6006